

R4年1月14日（金）

テーマ：医療安全管理者養成研修修了者フォローアップ研修

講師：辰巳 陽一 先生 近畿大学附属病院 病院長補佐
医療安全対策室長

場所：看護研修センター

参加者：17名

ねらい：・前向きな医療安全管理への転換（責めないチームの作り方、心理的安全性、ポジティブインシデントについて）



今回の研修会では医療安全へのポジティブアプローチについての講義がありました。医療安全の4つの文化と公正な文化、医療事故対応の2つの考え方（Safety-1とSafety-2）、レジリエンスとポジティブインシデント報告、ポジティブ心理学と心理的安全性と4つの視点から、ものごとの悪い部分ばかりではなく、ものごとの良いところや改善できる点に目を向ける活動が大切であると学びました...



R4年1月19日(水)

テーマ： エンド・オブ・ライフケアを学ぶ（一般病棟編）

講師： 田邊 麻希 先生 社会医療法人 黎明会 北出病院
緩和ケア認定看護師

場所： 和歌山県情報交流センター ビッグU

参加者： 21名（内1名Web参加）

- ねらい： ・質の高いエンド・オブ・ライフケアを提供できるように、患者のニーズに応じて提供できる知識・技術を習得する。
・看取りそのものに対する具体的な関わり方を学ぶ。



もし生きることができる時間が限られているとしたら、あなたにとって大切なことはどんなことですか？

- ・家族や友人のそばにいること
- ・仕事や社会的な役割が続けられること
- ・身の回りのことが自分でできること
- ・家族の負担にならないこと
- ・痛みや苦しみがいないこと
- ・少しでも長く生きること
- ・好きなことができること
- ・一人の時間が保てること
- ・自分が経済的に困らないこと
- ・家族が経済的に困らないこと ……

「エンド・オブ・ライフケア」 の定義

「病や老いなどにより、人が人生を終える時期に必要とされるケア」(ELNEC-J)

「診断名、健康状態、年齢にかかわらず、差し迫った死、あるいはいつか来る死について考える人が、生が終わる時まで最善の生を生きることができるように支援すること」(千葉大学大学院看護学科研究科エンド・オブ・ライフケア看護学)

“倫理的ジレンマを感じたとき”

☆ひとりで悩まない

☆解決の手段がないままにしたりして、
自分の悩みとして閉じ込めてしまわない

☆まず考えたことを表現してみる

“話し合う場をあることが重要”

この患者が医学的および看護的ケアからどのような利益が得られるか、また、どのような害を避けることができるか

R4年1月22日(土)

テーマ：看護管理者が創成する地域連携
～変化の時代におけるケアマネジメント～

講師：稲垣 伊津穂 先生 名手病院
看護部長 認定看護管理者

場所：看護研修センター

参加者：16名(内11名Web参加)

ねらい：看護管理者が地域を俯瞰し、他施設や在宅等と自施設との看護をつなぎ、看護の質の向上を目指す。



会場での参加とWebでの参加。
ほとんどの方が、Webで参加だった。
講義および個人ワーク、グループワークで実施。
「まず、あなたの今日の目標、現場で活かせることを想像してください」で始まる。

個人ワークとグループワーク・発表が何回もあった。
自分の考えを「文字に書く」「口に出して伝える」ことで改めて自分の考えがまとまることを実感した研修であった。
受講者からは、「わかりやすく、講義に吸い込まれた」などの意見があった。



「ほぼ在宅の方を支えるには、どうすればいいのか。それは、地域を知らないといけない」

「時間軸の考え方が病院と地域では違う。1日が24時間ということは同じでも時間軸は違う。その人にとっての時間軸で支えることを考えないといけない」

先生のこの言葉が印象的だった。